

校長室からのお知らせ

6月19日号 NO.9

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

ケツメさん と イシさん

毎朝の通勤電車で聞かせていただいている年配の2人の女性の会話だけを集めた「校長室からのお知らせ」を発行したいと思うくらい、ツボに入って抜け出せずにいます。

Aさん「孫娘がケツメイシがどうやこうやって言うけど、よう分からんねん。小遣いだけ取って行かれたわ。」

Bさん「ケツメイシって何よ？」

Aさん「歌い手さん（歌手）やて、歌い手さん。けったいな名前やろ。」

Bさん「ケツメさんとイシさんのコンビやな。」

Aさん「そやろ。上の名前にせんとやすきよ<漫才師の西川きよしさんと横山やすしさんのことだと思います>みたいに下の名前にしたらよかったのにな。」

Bさん「ほんまや。ほんまや。もっと上品な名前にせな、売れへんわな。」

Aさん「そやな。あっ、もっと、けったいな名前の歌い手さんもいてるやん。」

Bさん「知ってるよ。イブクロやろ。」

Aさん「そう、そう。イブクロ。ちゃうちゃう。コブクロや」

Bさん「ほんまや。ほんまや。イブクロって何や。」

Aさん「あんたが言うたんや。」

って会話を聞かせていただき、吹き出しそうになるのを懸命に堪えていました。さて、人以外にも年配の方は、よく「さん付け」をされますが、敬意や親しみが込められているようで個人的には好感をもっています。私の祖母もあらゆる物に「さん付け」していた記憶があります。「お鯛さん⇒鰯や鯖にはつけず鯛だけでした」、「おいなりさん⇒いなり寿司」、「お日さん⇒太陽」などは、今も尾野家では普通に使っています。しかしながら、祖母はトイレの大きい方にも「お腹痛かったら、う〇こさん（お食事中の方、申し訳ございません）、しといで」って、けったいな物にも「さん付け」をしていました。

すみません。完全に雑談で、完全に紙の無駄遣いで、反省します。

校長室からのお知らせ

6月30日号 NO.10

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

創立154周年です

明日、7月1日は山直北小学校の創立記念日です。創立記念日が休みになる理由は、学校の「誕生日」を祝い、学校の歴史や実績を振り返り、これからの発展を祈念するためらしいです。

そこで、山直北小学校の歴史を少しでも紹介しようと思い、校長室を物色したところ、昭和47年7月1日に発行され、子どもたちや地域の方々に配布されたと思われる「やまだい 百周年記念 岸和田市立山直北小学校」という記念冊子を見つけました。冊子の中には、「創立100周年記念 原田ことえ唄 田うえうた・うすひきうた・よめいりうた 製造・ポリドール株式会社」と印刷された私が子どものころに見たことのある雑誌の付録についていた「ソノシート」や「フォノシート」と呼ばれた赤くてペラペラのレコードも入っていました。かなり貴重な資料だと思いますので、この冊子から抜粋して山北の歴史を少しお伝えします。

明治5年7月に田治米村正源寺の本堂で新在家校として開設されたのが起源となります。明治7年4月に三田村正楽寺の本堂で開設された三田校と明治41年に合併して山直尋常小学校となりました。明治41年4月1日から明治43年11月12日まで校長として務められたのが、校長室の壁面にも初代校長として飾られている藤井信成先生です。その後150年余りの間に30人以上の校長先生が赴任されています。

冊子には、昭和47年の町別児童数も掲載されています。岡山町から457人、田治米町から201人、三田町から297人、今木町から56人、摩湯町から79人、東ヶ丘町から183人、区外から7人と今の2倍の約1280人が通っていたようです。

また、6年生の児童の作文も掲載されています。「わたしは、創立百年に6年生であることを、ほこりと思います。明治、大正、昭和という三つの時代をすごしてきたこの学校。すごいなあと思います。また、**ごくろうさんともいいたい気持ちです。(一部抜粋)**」と書かれています。とてもしっかりしたお子さんだと、うかがえる文章です。少し、**物怖じしない強さ**も感じますが。